

豊能地区教職員人事協議会では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。今年度よりめざす教職員像を見据え、また教員免許更新制が導入されたことを受け、中堅教諭等資質向上研修として実施していた 15 回の研修を、公立学校 5 年経験者研修と 10 年経験者研修に分け実施します。

今年度より新設の 5 年経験者研修は、小学校教諭 88 名、中学校教諭 38 名、合わせて 126 名の先生方が受講されます。この通信は、豊能地区で行う共通研修の振り返りをもとに発信します。受講者の皆さんの視野を広げ、研修から学んだことをより深めることにつながればと願い作成していきます。

### 開講にあたって テーマ：キャリア教育についての理解 ~これからの学校教育で求められるもの~

開講にあたり、(株) キャリアリンク教育アドバイザーの水田さん (1 班) 長友さん (2 班) をお迎えし、演習も交えご講義していただきました。

まず、これまで自分自身が経験してきた道すじを振り返るワークから始まりました。そしてキャリア教育の定義が社会の流れに対応し変化していること、また学習指導要領との関連性、さらにはキャリア教育の視点を取り入れた指導案について考える等、キャリア教育の視点を意識し、教育活動に取り組んでいく重要性を段階的に学びました。

現在の学校教育におけるキャリア教育が何かを考えることができました。社会でこれから必要となる能力や態度を踏まえ、どのように子どもたちと関わっていくのか、授業をつくっていくのか、キャリア教育の視点で考えることが、今の自分にはなかったように思います。課外活動では、意識せずに主体性やリーダーシップ、課題解決能力など養える場面も多く、子どもたちに学んでもらうことができていると思いますが、教科となるともっと見直しをして、意図しないといけないと思いました。学習指導要領を読み、子どもたちに還元できるように授業をつくっていきたいと思います。

学習指導要領のアンダーライン(キャリア教育に関わる部分)の多さに驚きました。それと同時に、教科を問わず、子どもたちの指導の中で、キャリア教育をしていかななくてはならないのだと改めて感じました。未来を生き抜く子どもたちを育てるためにも、「どんな力をつけてほしいか」を教師自身が、しっかりとした目標を見据えておかななくてはならないと思いました。

最後のワークでは、同じことを教える 2 つの授業でしたが、こんなにも異なる内容になるのかと感じました。1 の授業も悪くないと思いましたが、2 を見ると 1 がすごく受け身に感じ、2 の授業をイメージすると子どもたちがイキイキと活動している様子が目に浮かびました。2 のような子どもたちが主体的に活動する授業を 1 年を通して組み込むことで、身につく力は全然違ってくると思いました。今日の講義も話し合ったり、意見を交流したりするものが多かったので、いろいろな意見を聞くことができ、考えの幅が広がりました。教室で、子どもが主体的に活動できるような内容の授業を考えていきたいです。

キャリア教育という言葉を聞くと、漠然と将来や仕事に向けての学習や経験と結び付けて考えていましたが、今日のお話を聞いて、自分の役割や価値、生き方を見出すことなんだと認識を改めることができました。これからの社会を生き抜いていく子どもたちに、学校というコミュニティの場でどんな力をつけたいのか、必要になるのかを自分自身がよく考えて、目の前の子どもたちと向き合っていくことが大切だと感じました。他市の先生方と交流しながら、自分の考えも深めていくことができました。

“5 年目を迎えて経験を積んだ今だからこそ知りたい。周りの 5 年目の先生たちがどのようなことをしているかを吸収し、更なる発展をしたい。” (振り返りシート：『研修について』より) これまでの経験があるからこそ、次の学びへとつながります。また課題意識をどのように持つかで、同じ研修であっても学びとる内容が異なってきます。最終回には、6~10 年のキャリアプランについて考えていきます。そのことも視野に入れ、それぞれの研修が実り多きものになるよう進めていきます。

## 「授業研究シート」を Web アップしました

豊能地区公立学校 5 年経験者研修「授業研究シート」を Web アップしました。第 4 回の閉講時に 6 部持参し、実践報告・交流をします。詳しくは、豊能地区公立学校 5 年経験者研修の手引 P. 4 をご覧ください。